

リフォーム工事への最大級のほめ言葉

『設置したものはどれ一つ
欠けてもたいへん不便なことになる』

新潟市青山、高台の静かな住宅地の一角に市川邸があります。その邸宅にお邪魔して認知症を発症したお母様のカズ子様と娘さんの市川節子様を訪問しました。

市川邸は当社新潟支店

と(有)あすの住まい計画が共同で建築改修にあたったお宅です。

車椅子生活になったお母様の介護で一番大変なトイレ介助の労力を軽減しようと、まず、そこから改修工事が始まりました。

今までの八畳プラス広



ちよっと

を設置いたしました。八畳の方は寝室に、六畳にはトイレと汚れを落すシャワールームを用意し、寝室と一枚戸を挟んでトイレに行かれるという在宅介護の理想の部屋ができました。

住まいのリフォームコンクールで優秀賞

— 全国六〇〇社の中から選ばれた栄誉 —

詳しく述べ

ますと、トイレ便器の前の壁に、使用される方が中腰になっ

て、人間工学に適した空間に作られた部屋に仕上がっています。勿論、床は温度差で身体がダメージを受けてしまうヒート

力と時間が掛りました。そこで、雨の日も楽に乗車できるようカーポートに屋根を新設、奥に車椅子用の電動リフトを取り

求められた
高レベルの工事に
うれしいニュース

この改修工事は三週



④改修前の寝室 ⑤改修後
コルクタイルと床暖房によって快適な寝室



④改修前の六畳間 ⑥トイレとシャワー
「快適に生活していることがなにより」というお言葉は短期間工事の疲れを吹き飛ばす

設計です。車椅子でカズ様がデイサービス、ショートステイなどで外出をする時、以前は玄関の階段からの上げ下ろし、車への出入りに労



付けました。これで雨模様



⑦の門扉をとりはずした屋根付きガレージは出入りが便利⑧

間、休日なしの突貫工事で、密度の高い仕事を要請されました。その努力の結果が認められたのでしょうか、うれしいニュースが秋に飛び込んでまいりました。全国規模で活動している、財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センターから、(有)あすの住まい計画の顧問デザイナー飯田公久様と

そのことを施主の市川節子様に報告しますと、「母カズ様が快適に生活していることで受賞もうなづけます。設置したものはどれ一つ欠けても介護にはたいへん不便なことになると思う……。」と最大級のおほめの言葉をいただきました。この「ざいたくしんぶん」2頁(次頁)には施主の市川節子様に快適在宅介護のお話を伺いました。

様の荒天でも屋根があり、楽に家から車への移動ができるようになったのです。

うになったのです。

もども当社も『第26回住まいのリフォームコンクール』で優秀賞をいただいたのです。

優秀賞は、全国六〇〇

社の内から選ばれた三十八社。かなりのレベルを求められる賞だということなのです。

介護は、楽しく幸せ

母に借りを返す日々

在宅介護の頂点を語る

新潟市の市川節子様

市川カズ子様は認知症で車椅子の生活です。その介護をしているのが娘さんの市川節子様。節子様は昨年、東京の大学を定年退職、新潟大学で講師を勤める傍らお母様の介護に専念しようとご家族とは別にふるさと新潟に戻って来られました。一人娘であった節子様

は、まず、在宅介護は快適であらねばならないという思いで、前頁にあるように、家を改修して総ての生活を母親中心に暮らすと考えました。リフォームの快適さだけが幸せな介護に結びつくわけではないのですが、母親に対する愛情がその考えを育んでいる、ということも感ずるところであります。

そんな節子様のカズ子さまに対する愛情物語を、

症状の進行をご近所様に教えられる

母は、二〇〇二年頃から認知症の症状が始めました。それを教えてくださったのが、新潟に一人住まいであった母のご近所の人。東京から朝夕二回の私からの電話だけでは分りませんでした。その後、少しずつ症状が進んだ母を東京にひきとり、その間、認知症の

住宅改修が完成した市川家に伺ってお聞きしました。

介護簡単メニュー

飲み込みが悪くても「おもち」が味わえる一品 ご飯にサトイモを混ぜた“いそべ巻き”

明けましておめでとうございます。

新年を迎えて「おもちが食べたいな…でも、ちょっと飲み込みが悪く、つかえるのが心配と思ったら、やわらかご飯に同量のサトイモを混ぜた「いそべ巻き」はいかがですか？



●作り方（4人分）

- ①米1合に水1.2倍で炊き上げたご飯と同量のサトイモのつぶしたもの（中位の大きさ5個位を皮をむき、ふかし、つぶしたもの）、砂糖小2、塩少々を入れ、一緒に混ぜる。
- ②手でまるめて小さめの切り餅ぐらいの大きさにしてフライパンに少々の油をひき、両面を焼く。
- ③焼き色がついたら、だし醤油をさっとふりかけ、のりを巻く。
- ④写真では付け合せに赤カブを添えてみました。

お正月のおせち料理で残ったサトイモを利用して、上手にできます！

高田訪問介護課 板倉寛子（介護食士）

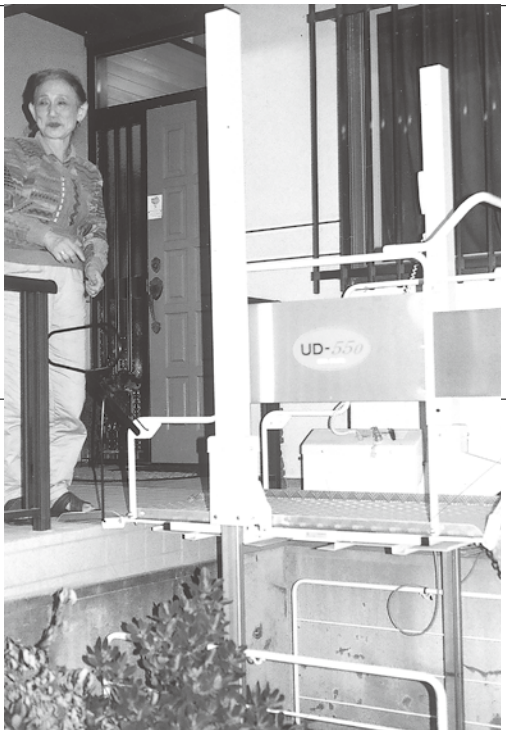
目覚めの母—おもわず笑顔が飛び出しそう…、二人で見詰め合う。

介護に関する一通りのことは経験させられました。例えば、魚を買ってきてもそれをタンスに仕舞い込む、徘徊などは日常茶飯事。そんな中、ニユーヨークに同行したこともあり、金沢の好きな母はニユーヨークのホテルの窓から外を眺め、「あらあ、金沢も外国人が多いのね」認識のないのを、認知症なんて……。

在宅介護は介護保険が かなりカバー

昨年の春、定年退職をしたのを機に新潟に戻ってきて感じたことなのですが、母の病状もかなり進んでしまった状態で、「ちょっと遅かったかな」

「もう少し早く帰ってくればよかった」と悔やみました。夏に、食事をする力が弱ってききましたので、お医者さんに相談、点滴



玄関の車椅子用リフトを操作、母を見送る。

入院という形になりました。鼻から栄養を流し込む方法もあるのですが、本人および介護者の負担が軽いと判断した、「胃ろう」という、胃に直接栄養分を送り込む方法で在宅介護の延長を期しました。飲み下す嚥下力の衰え、食べ物が入って引き起こす誤嚥性肺炎それらを回避する方法として選択したわけです。在宅で介護するにあたり、現在の介護保険のサービスはかなりの負担をカバーできているのも感じました。住宅改修に対していろいろと要望し、もう少し上にとか、右へとか注文をつける私の言うこと

を耳傾けていただきました。細かい注文にも情熱を持って熱心に素直に仕事をし、下さる姿勢に、結果的にとても満足して

母からもらった幸せを返す

母は病人としてはおとなしいしハッピーな人と思います。

介護をしている人たちの集まりで、「まさか！と思われるかもしれませんが、『介護は楽しい！』と心から感じています」と申し上げると、皆さん

びっくりなさいます。正直なところ、現在は「至福の境地」って感じがしています。

母にはたくさん借りがあり、今は、「母から受けた愛情のお返しをし

います。勿論、この仕事の発端でもある顧問デザイナーの飯田公久様には心から感謝しております。

「いる」という気持ちで介護をしています。借りは数えきれないのですが、例えば、こんな思い出があります。

小学校一年生の時のことでした。初めて訪ねた友達の家で暗くなるまで遊び、送ってくださるといふのを、つい遠慮してしまったことがあります。本当は帰り道もよく分らず、不安でたまりません。それなのに断ってしまっただけです。

ああ、かわいい！

友達の家の玄関の外は真っ暗……。大声で母を呼び、泣いてしまいました。すると、その呼び声に答えて、遠くから、「節子……」と母の声です。驚くやら、嬉しいやら。母は、友人の家の正確な場所も知らないのに、心配して、迎えにきてくれたのでした。

今は、母親が赤ちゃんを抱っこして感じるような幸せを感じています。立場が逆転したような親子関係で、「これこそ幸せ！」と思っています。

工夫と愛情で介護を……

眠っていることの多い母は、眼を開けて私を見るといつもニコニコするので、私も「ああ、かわいい！」って思っています。母と別れる時がきても、この母なら苦しみに、眠るように逝くだろうと思うので、怖くありません。

人生最後のステージにいる人とこんなに幸せなコミュニケーションができるのは予想していませんでした。こういうことから考えますと介護する側が、さ

れる本人より幸せを感じるのかもしれないと思います。また、実際に介護をしていますと、介護に関する世の中のことが理解できるといふようになります。そして、自分が家族以外の方の介護にも参加できるように思っています。いろいろな人が、いろいろな物が組み合わさることによって思いがけないほど豊かな展開ができるのではないのでしょうか。それも、すべて、善意の持ち寄りです。

レントルのベッドに寝ている母のほっぺを突っつきながら、在宅介護は楽しい！と幸せを噛みしめています。「寝たきりになったら施設に入れるしかない」と言われたこともありましたが、いろいろ工夫して住宅を改修すれば、環境の余裕を創り出すことができます。人間、工夫と愛情で最期まで自宅で介護することができるといふのです。



お客様本位の質の高いサービスを目指して

ケアマネ合同検討会

さくらメディカル㈱の居宅介護支援事業所は、新潟市内と上越地区（高田・直江津・あらい）の四つの事業所があります。各事業所では、ケアマネジャーがお客さまへ行う「サービスの質の向上」を図るために定期的に事例検討会を実施しており

ます。お客様への支援方法の反省点や、他のメンバーからの意見を聞くことにより、学んだこと、気づいたことを日々の仕事に生かす努力を重ねております。

去る十月二十七日に長岡支店で、初めて四つの居宅事業所が集まって合同事例検討会を開催いたしました。当日はほぼ全員の二十一名が参加、いつもとは違ったメンバー

との話し合いの中で、自分にはなかった考え方やお客様と向き合うとき、視点など新たな気づきを得る有意義な場ともなりました。

ショップ便利用品ご案内

足元の寒さ対策はこれでOK！

新春とはいえ寒さはこれから本番。寒さ予防には「くび」がつく部分をあたたくすると効果があります。たとえば首や手首、足首です。

冬は特に、足元が冷えてきます。そこで今回は、足元の寒さの悩みを解決するあたたかな商品をご紹介します。

オープンボアブーツ

室内履きですが、靴底の厚みがありますので床からの冷えを予防します。内側はモコモコで温かなボア素材です。全体のつくりがゆったりしていますので、むくみのある方にもおすすめです。

カラー…アイボリー・グレー・レンガ

サイズ…M(22)・L(23)・LL(25)・LL(26)

価格 3,990円(税込)

防寒すべり止め付くつ下

かなり厚地の靴下です。履き口はゆったりしていますので、嫌な締め付け感はありません。また、すべり止め付きですので室内履きなどを履かなくても滑りません。

カラー…(紳士用)チャコール・グレー・黒(婦人用)ピンク・グレー・ベージュ・黒

価格：(紳士用) 1,050円(税込) (婦人用) 945円(税込)

ひざロングカバー (2枚組み)

ズボンなどおしりまであげにくい方におすすめです。足首からひざ上までしっかりあたためます。

カラー…グレー・チャコール・ブラウン・ブラック

価格: 1,050円(税込)

介護ショップ上越店 保坂美奈 (福祉用具専門相談員)

訪問入浴介護サービス



出発！！勢揃いした訪問入浴車

みんなニコニコ、ひと時の安らぎを……

日本人のお風呂好きは有名ですが、高齢になってくると誰でも少しずつ、一人だけでの入浴が難しくなってきます。

「入浴」は清潔を保つことから日常生活の大切な一端です。今まではご家族に頼っていたご自宅での入浴に代わる「訪問入浴」を、当社では介護保険制度の導入と同時に開始しました。この訪問入浴では、ご家族の介護負担の軽減によってゆとりが生まれるなど、ご利用された皆様から大変

喜ばれています。

当社が掲げる訪問入浴の理念は、「ひと時の安らぎのご提供」です。常々心がけていることは、「ありがとう」という言葉だけ。安全で快適な入浴サービスの提供です。

それを実現するために欠かせないのが「チームワーク」です。訪問入浴車に同乗する三人のスタッフ（①入浴を介助するヘルパー、②入浴前後の健康チェックや入浴補助を行う看護師、③車の運転と給湯器などを操作するオペレーター）が日々研鑽を積み重ねています。

衛生管理の充実で

幅広い信頼を得る

開設から約十年となる現在は、上越市の訪問入浴介護サービス（介護保

険）の六割強を提供しています。このような多くの皆様から信頼をいただいている一番の理由は、「衛生管理面の充実」であると自負しています。特に感染症に対しては、最大限の気配りで感染防

止に努め、使用する器具などの消毒は、専用の除菌設備で行っています。また、事情によって入浴の間隔が開いた利用者様への頭髮の二度洗いや、身体全体を丁寧に時間をかけて洗うことなどに対しては、大満足の声をいただくこともあります。

無病息災を祈って

「柚湯サービス」



柚をにぎってご満悦の

田中幸雄様（妙高市矢代）

十二月二十二日は冬至、この日は無病息災を祈って柚湯に入り、かぼちゃを食べて金運を祈る風習があります。当社でも柚湯としょうぶ湯は平成十五年に始めて実施し、好評であったため現在まで継続しています。訪問入浴課で

読者投稿
ひろば

今回より読者の皆様から寄せられました声（趣

味の活動など）をご紹介させていただきますことになりました。第一回目の今回は、俳句です。

稜線に 茜残して 秋陽落つ

賀来 和様

雑煮膳 そろって祝う めでたさよ

渡邊寛代様

これからの皆様の素敵な趣味をご紹介していきます。

ます。俳句や川柳、塗り絵、手芸品などご自慢の

は、昨年も冬至の一日前

伺ったのは、田中幸雄様（75）宅。

サービスを行いました。

田中様の入浴サービス

『ざいたくしんぶん』取材班は、妙高市方面に向かう一台に随行させてもらいました。

は、汗をさっぱりしたい夏の期間は週に三回、そのほかの時期は週に二回です。

朝、八時半出発。妙高市矢代に向かいます。雪は五十センチを超えた積雪で、さらさらした雪質でした。吹雪の中、寒さなどものともせずスタッフは手早く準備します。

当日の湯加減は41℃。柚をしっかりと両手でつかみ、香りをいっぱいに吸い込む笑顔は、とてもリラックスしてサービスを受けておられる様子で、スタッフにも最高の贈り

物でした。

田中さんは脊椎の疾患で下半身麻痺の難病を抱えておられます。日本書達（株）に四十年勤務、現在も特別に改造した車で運転、身の回りのことなどを自立され、前向きな生活をされておられます。

訪問入浴ならずとも「在宅支援」はさくらメデイカルの最大の方針です。ご相談されて、上手にお使い下さい。

新潟県上越市子安1378

さくらメデイカル 趣味の広場係

〒943-0141

作品で心温まる紙面になれば幸いです。

ご投稿などにつきましてはお近くのさくらメデイカルのスタッフ、または、左記までご連絡をお願いいたします。皆様の作品を心よりお待ち申し上げます。

訪問入浴の手順



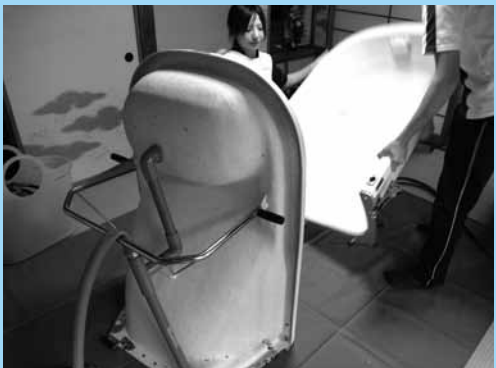
①ご利用者様宅に到着。器材を運び込む



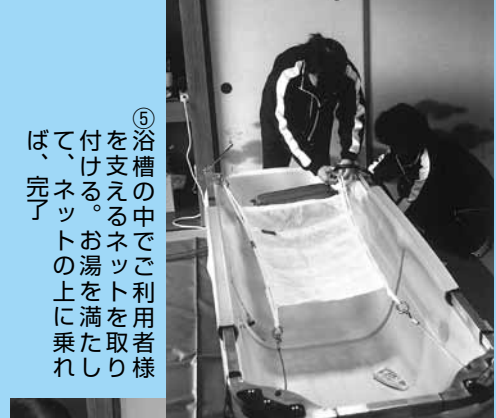
②訪問入浴車がスタンバイ。ここからお湯をホースで流し込む



③部屋を汚さないようにビニールシートを敷き詰める



④二つに折って収納してある浴槽を一つにドッキング



⑤浴槽の中でご利用者様を支えるネットを取り付ける。お湯を満たして、ネットの上に寝れば、完了



⑥……入浴中は皆様ニコニコですね。みんな幸せ……

右記の文中と上記の写真は関係ありません。